

課題名	21 難防除病害虫の防除法の確立	分類	①
	アスパラガス茎枯病の雨よけによる耕種的防除効果		
試験研究年次	63~2年(完了)		
<p>I 目的</p> <p>アスパラガスの重要病害である茎枯病に対して雨よけによる防除効果を検討し効率的防除法を確立する。</p>			
<p>II 試験方法</p> <p>1 試験場所 福岡農総試験内圃場</p> <p>2 耕種概要 品種:メリーワシントン500w、定植:63年5月25日、畝幅1.3m 栽植間隔30cm、1条植え、わら被覆、雨よけ栽培は畝中央部でハイフ灌水</p> <p>3 処理方法</p> <p>(1) 雨よけの方法 間口3m、高さ2.3mのパイプハウス支柱にビニル被覆、ビニルの下端までの高さ1.3m、天井部のみ被覆</p> <p>(2) 雨よけの期間 63年5月(定植時)から栽培全期間</p> <p>(3) 薬剤防除区の薬剤散布方法</p> <p>ア 63年 6月10日から7月18日にかけてダコニール1000 1000倍、アンレート水和剤2000倍、アフラック液剤25 1000倍を合計4回散布</p> <p>イ 1年 7回散布区は6月1日から7月24日にかけてダコニール1000 1000倍、アンレート水和剤2000倍、アフラック液剤25 1000倍、トップジンM水和剤 500倍を合計7回散布</p> <p>4回散布区は7回散布区の第1、3、5、7回散布時のみ、合計4回散布</p> <p>(4) 区制・面積 63年:1区5.9~11.7㎡ 2連制 1年:1区2.9~5.9㎡ 2連制</p> <p>4 調査方法 63年10月12日は調査株全茎の枯死茎、りん片発病茎を調査 1年10月4日は調査株全茎について発病程度別に調査 薬害は観察により調査 発病程度は甚:枯死、多:病斑数11個以上、中:同3~10個、少:同1~2個</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>アスパラガス茎枯病に対する雨よけ栽培による耕種的防除効果を明らかにした。</p> <p>1 茎枯病は、露地栽培では定植後初年目から梅雨期を中心に発病し、2年目以降に急激に蔓延するが、雨よけ栽培では著しく発病が抑制される。</p> <p>2 茎枯病初発前からの雨よけは、発病抑制効果が極めて大きいので、薬剤防除を大幅に軽減できる。</p> <p>3 露地栽培における、茎枯病多発後のアンレート水和剤、アフラック液剤25、トップジンM水和剤、ダコニール1000の6~20日間隔の交互散布は、発病抑制効果が低く、実用的でない。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 雨よけ及び薬剤防除による茎枯病の防除効果

(63年)

処 理	薬 剤 防 除	発 病 株 率 (%)	発 病 茎 率 (%)		
			枯死茎率	りん片発病茎率	合計
雨よけ	防 除	0	0	0	0
	無防除	0	0	0	0
露 地	防 除	91.3	0.3	13.6	13.9
	無防除	98.2	0.2	20.6	20.8

注) ①調査時期 63年10月12日

②薬剤防除 63年6月10日、18日、27日、7月18日の4回散布

第2表 雨よけ及び薬剤防除の回数と茎枯病の防除効果

(1年)

処 理	薬 剤 防 除	発 病 株 率 (%)	程 度 別 発 病 茎 率 (%)					薬 害
			甚	多	中	少	合計	
雨よけ	7回散布	100	11.9	3.1	2.4	4.8	22.2	-
	4回散布	80	11.6	1.3	0.5	3.5	16.9	-
	無防除	100	8.8	2.4	1.0	5.8	17.9	-
露 地	7回散布	100	43.7	17.9	14.4	12.5	88.5	-
	4回散布	100	44.1	8.9	15.7	11.7	80.4	-
	無防除	100	73.4	10.6	5.6	3.7	93.3	-

注) 調査時期 1年10月4日

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 薬剤防除に依存しない優れた耕種的防除法として防除対策の資料となる。
- 2 茎枯病は被害残渣や病斑上の柄胞子が雨水とともに飛散し伝染するので、雨よけ栽培の場合にも灌水には注意が必要で、茎葉に飛散しない方法で行う。また、被害茎は圃場に残さないよう早めに除去、焼却する。

VI 今後の研究上の問題点

露地栽培における有効な防除法の開発

VII 資料名

1年度福岡県農業総合試験場生産環境研究所 野菜・花き病害虫関係試験成績概要書